



# 健康テラス



## 心臓ペースメーカー



かたやまハートケア  
クリニック  
片山 敏郎 先生

ペースメーカーは、一言で言うと、不整脈治療のために体内に植え込む機械です。

不整脈は脈が早くなるものと遅くなるものがありますが、この治療は遅くなる“徐脈性不整脈”が対象となります。症状としては、動悸、息切れ、ふらつき、目眩、失神などがあげられます。代表的診断として、洞不全症候群、房室ブロック、徐脈性心房細動などがあります。

この治療を受けるためには、循環器内科を受診いただき、まず治療の適応の判断をします。検査には通常の心電図の他に、24時間心電図(ホルター心電図)などが必要なこともあります。

この治療の適応と判断された場合は、入院して手術を受けることとなります。ただ、局所麻酔で

循環器内科医が行う手術ですので、手術時間も1時間程度で、意識もはっきりした状態で行う、そんなに怖い治療ではありません。入院期間はおおむね数日から10日程度と短期間です。傷も数センチで、そんなに目立つものではありません。

治療後の生活は基本的には手術前と変わらず、入浴、運動も普通に可能です。ただ、バッテリー交換が必要ですので、数年から10年程度で交換の再手術が必要となります。

上記のように心臓ペースメーカーは非常に有効で安全な治療です。症状のある方は、ぜひ循環器内科にご相談ください。

# かい介GOの部屋

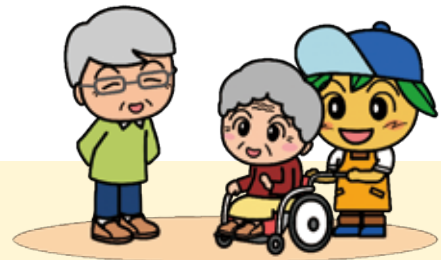
## ～地域包括ケアシステムの構築～

今回のテーマは難しい言葉に感じますが、独自に言い換えると、住み慣れたながよでずっと暮らしつづけるためには、これは必要だよな～と思うしくみを整えること…こんな感じです！

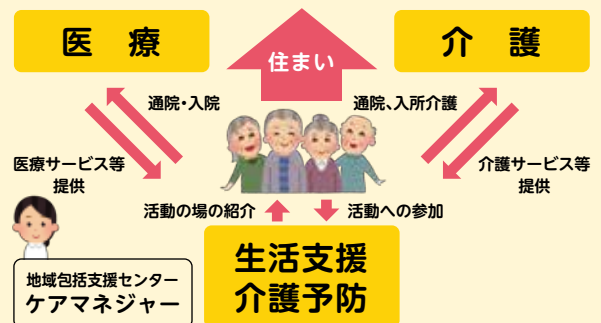
それでは突然ですが、「あなたが住みつづけたと思っている地域に絶対必要だと思うものは何ですか？」と聞かれたら、どう答えるでしょう。まずは住むための家、そして食料などを買えるお店、水や電気はもちろん、今はネット環境も必須でしょうか!?おそらく、「そんなこと、考えたことがないかな」と思うあなたはまだまだ若い世代で、仕事や子育て、趣味活動などで精一杯な状況ではないでしょうか。問題は、「ずっと暮らしつづける」⇒「高齢になる」⇒「高齢になっても安心して暮らしつづけるには？」なのです。

右図は、地域包括ケアシステムのイメージを簡単に表したものです。みなさん、高齢になっても安心して…のためには図にあるような、もしもに備えて『医療』と『介護』の施設やサービスが整っていることがすぐに頭に浮かぶのではないのでしょうか。

それでは、一番下の『生活支援と介護予防』についてで



## 地域包括ケアシステムのイメージ



すが、すぐに「あー、こういうことよ」とすぐに説明できたあなたは「すばらしい!!」

前号でご紹介した、介護保険法第4条に記された「国民は、自ら要介護状態となることを予防するため、加齢に伴って生ずる心身の変化を自覚して常に健康の保持増進に努める～」に直接つながるものとなっています。

今回、具体的な町の取組みの紹介まではたどり着けませんでした。今回はいよいよ身近なお話に入っていきたいと思います。お楽しみに！